

2023 年度 大阪医科薬科大学

エキスパート HOME ナースを目指す  
人材育成支援プログラム  
**OMPU-HOME ナース学び場**  
研修の手引き



学校法人 大阪医科薬科大学  
看護キャリアサポートセンター

## もくじ

I.	研修概要	1
	1. ねらい	1
	2. 研修目的	1
	3. 研修目標	1
	4. プログラム概要	1
	1) 科目構成と展開方法	1
	2) 研修期間	2
	3) 研修担当・連絡先	2
II.	研修についての基本事項	3
	1. 構内案内図	3
	2. 事務局について	3
	1) 事務手続き等	3
	2) 提出物の提出方法	3
	3) レンタル品について	3
	3. 健康管理	3
	1) 予防接種	3
	2) 健康管理	3
	4. 講義室等の利用について	4
	1) 研修室・講義室の使用	4
	2) 実習室の使用	4
	5. 身だしなみについて	4
	6. 通学について	4
	7. 悪天候・災害時の対応	4
	1) 悪天候時の対応	4
	2) 災害発生時の対応	5
	3) 避難経路・避難場所	5
III.	履修の手引き	6
	1. 授業概要	6
	2. 研修のすすめ方	7
	1) 授業方法について	7
	2) 講義について	8
	3) 演習について	8
	3. 受講上の留意点	8
	1) 出席確認	8

2) 欠席・遅刻の連絡	8
4. 修了要件	8

シラバス (講義計画)

臨床判断を发展させる科目

臨床推論	10
フィジカルアセスメント	11
在宅看護における生体診断	12
看護倫理	13

マネジメントを发展させる科目

医療の質保証と安全管理	14
看護教育・看護管理	15
コンサルテーション	16
地域包括ケアと多職種連携	17
社会保障制度	18
メンタルトレーニング	19

看護実践を发展させる科目

感染管理とマネジメント	20
呼吸器疾患とケア	21
高齢・認知症ケア	22
医療的ケア児の看護	23
在宅緩和ケア	24
在宅リハビリテーション	26

時間割	27
キャンパスマップ	28

## I. 研修概要

### 1. ねらい

超高齢社会の進展を背景に看取りを含めた在宅医療の需要に対応できる訪問看護の量的拡大とともに、人びとの複雑かつ多様化するニーズに対応できる訪問看護の質向上が求められている。そこで本プログラムでは、変化する社会を見据え、高い倫理観のもと根拠にもとづいた看護実践力と教育指導力を兼ね備えた、エキスパート HOME ナースを育成・輩出し、訪問看護師の人材確保と訪問看護の質向上に寄与する。

HOME ナースとは、以下の能力を有した地域で活躍できる看護師を指している。HOME ステーションとは、訪問看護師、在宅ケアに携わる看護職が新たなアクションを起こすために必要となる力を生み出す場を意味している。

**Health management and Hospitality**：予防から看取りまで幅広く対応できる

**Operation skill**：基本技術やアセスメントが熟達している

**Multi human communication**：利用者・家族・多職種との連携・協働ができる

**Environmental care**：利用者の生活環境に配慮できる

### 2. 研修目的

在宅療養者と家族の価値観と生活を理解するとともに、健康問題を多角的にとらえ、倫理的配慮にもとづいた看護実践力と、その実践を通してスタッフや学生を指導できる教育力を身につけることを目的とする。

### 3. 研修目標

1. 複雑、多様化する社会及び医療状況、在宅療養者と家族の健康課題を多角的に分析できる。
2. 在宅療養者と家族の価値観と生活を理解し、専門職としての倫理的配慮にもとづいた事例展開ができる。
3. 他職種と連携・協働しながらチームアプローチの推進に必要な知識やスキルを理解し、自施設及び自己の課題を整理できる。
4. スタッフや学生を教育・エンパワーメントするために必要な知識やスキルを理解できる。
5. 看護の質の維持推進のための自施設の課題を分析し、行動計画のもと実践、評価できる。

### 4. プログラム概要

#### 1) 科目構成と展開方法

「臨床判断を発展させる科目」「マネジメントを発展させる科目」「看護実践を発展させる科目」を配置し、思考を深め言語化することを重視した授業展開、さらにアクティブラーニングによる学習者能動的参加・実践型の授業を展開する。

2) 研修期間

2023年10月～2024年3月（原則として、土曜日隔週で開講）

3) 研修担当・連絡先

大阪医科薬科大学 看護キャリアサポートセンター

住所：大阪府高槻市大学町2番7号（本部キャンパス）

電話番号：072 - 683 - 1221（代表）

メールアドレス：k-career@ompu.ac.jp

※ 受付時間：授業日の9時～13時、14時～17時（原則）

時間外に連絡事項が発生した場合もセンターの受付時間内に連絡する。

## Ⅱ. 研修についての基本事項

### 1. 構内案内図

病院内案内図および看護学部（北キャンパス）案内図参照（p. 28）

### 2. 事務局について

#### 1) 事務手続きや問い合わせ等に関連する事項

下記の受付時間以外は、各諸手続きや問い合わせ等をご遠慮ください。

受付時間：授業日の9時～13時，14時～17時（原則）

休業期間：後日お知らせ

#### 2) 提出物の提出方法

- ・提出物には必ず表紙をつけて「研修生番号」，「名前」，「科目名」を記載してください。
- ・書式：Word 文書，A4サイズ
- ・提出方法：ファイル件名は「授業科目名，研修生番号，名前」とする。  
メールに文書を添付しキャリアサポートセンターへ提出  
※期限を厳守し提出してください。
- ・提出先：大阪医科薬科大学看護キャリアサポートセンター  
メールアドレス k-career@ompu.ac.jp

#### 3) レンタル品について

- ・研修期間中に使用する名札，図書カードは当センターより貸し出します。紛失することなく研修最終日に返却してください。

### 3. 健康管理

#### 1) 予防接種

- ・新型コロナワクチン接種を3回受けていることを推奨します。

#### 2) 健康管理

- (1) 授業の前1週間より毎朝起床時に検温をし，体調とともに所定の用紙に記入して，毎日ご持参ください。
  - ・入力内容は【体温】【症状の無・有（発熱・咳・鼻水・嘔吐・下痢・他）】です。
  - ・授業のない日や土日もご記入ください。
- (2) 発熱（37.5℃以上），感冒症状，悪寒，全身倦怠感，下痢・嘔吐などの症状が見られる場合，感染症に罹患している人との接触があった場合は，自宅から事務局に報告・相談し，速やかに医療機関を受診してください。

また、受診後は結果を事務局に報告してください。

- (3) 授業や演習終了後に、感染兆候が現れた場合も速やかに事務局に報告してください。
- (4) 受講中の体調不良時は速やかに授業担当者に報告してください。
- (5) 研修期間中は、食事の時以外はマスクを着用してください。
- (6) 研修最終日から1週間以内にインフルエンザやコロナ等の感染症に罹患した場合は、事務局へご連絡ください。

#### 4. 研修室・学部講義室・実習室の利用上及び移動時・昼食時の注意点

##### 1) 研修室・学部講義室の利用について（昼食時の注意含む）

- ・授業、演習の場所は、時間割を必ず確認してください。
- ・昼食場所は、基本的に講義室を利用します。使用前後は、環境クロスで机を拭き、手洗い、手指消毒を徹底してください。昼食中は黙食とし、飲食後のゴミは持ち帰ってください。

##### 2) 実習室の利用について

- ・近隣にコンビニがありますが、ユニフォームのまま利用しないようにして下さい。病院内に2カ所あるコンビニは、ユニフォームのまま使用可能です。
- ・実習室は、土足厳禁、飲食禁止です。休憩中に水分補給をする場合は、ロビーでお願いします。

#### 5. 身だしなみについて

- ・受講時の服装は自由ですが、演習時には動きやすいものとしてください（ユニフォームやポロシャツ、ジャージ等）。
- ・研修室は土足となりますが、実習室は土足厳禁となります。実習室使用時には上履きの準備をお願いいたします。

#### 6. 通学について

原則として公共交通機関を利用してください。

以下の交通手段で通学の場合は、事務局にお知らせください。

- ・自転車・バイク通学を希望する場合は、事務局に申し出てください。
- ・自家用車の場合は、駐車場を各自で確保してください。

#### 7. 悪天候や災害発生時等の緊急時

##### 1) 悪天候時の対応について

(1) 阪急、JRいずれの鉄道でも運休が報じられた場合

7:00の時点で、その日の午前中の授業は休講となります。

なお、11:00において同様に解除されなければ全日休講とし、解除されれば午後から

授業（実習含む）を行います。ただし、事務局からの指示がある場合は、その指示に従ってください。

(2) 大阪府下において暴風警報あるいは何らかの特別警報の発令が報じられた場合

7:00の時点で、その日の午前中の授業は休講となります。

なお、11:00において同様に解除されなければ全日休講とし、解除されれば午後から授業を行います。台風接近等によって明らかに交通機関が不通となることが予測される場合は、事務局の指示に従ってください。

## 2) 災害（地震・火災）発生時における対応

不測の事態が発生した際、当センターの判断により休講とすることがあります。

## 3) 避難経路および避難集合場所

- ・一時避難場所では安否確認を行いますので、担当者の指示に従ってください。
- ・地震の際は、揺れがおさまり周囲の安全確認をしてから、火災時はできるだけ姿勢を低くして、速やかに最寄りの出口から避難場所まで避難してください。
- ・避難場所は、看護学部の北側駐車場になります。



### Ⅲ. 履修の手引き

#### 1. 授業概要

区分	科目名	主な学習内容	時間数	
			時間	コマ
臨床判断を 発展させる 科目	臨床推論	臨床推論とは 事例を用いた演習	4	2
	フィジカルアセスメント	問診 フィジカルイグザミネーション 臨床判断をもとにした看護実践	10	5
	在宅看護における生体診断	レントゲン・心電図 看護とエコー診断 ポータブルエコー活用の実際	10	5
	看護倫理	看護実践上の倫理的概念 看護実践における倫理原則 倫理的課題解決の方法と事例検討	10	5
マネジ メントを 発展させる 科目	医療の質保証と安全管理	医療安全 医療と看護の質評価とその枠組み 看護の質評価と改善	8	4
	看護教育・管理	看護におけるリフレクション リーダーシップ論 組織分析と課題解決に向けた実践	12	6
	コンサルテーション	コンサルテーションの概念 コンサルテーションのプロセス コンサルテーションの実際	6	3
	地域包括ケアと多職種連携	地域包括ケアシステムと看護 チーム医療に関する理論とその活用 多職種連携とコンピテンシー	4	2
	社会保障制度	社会保障制度とは 医療保険制度と介護保険制度 障害児者等を対象とした制度	6	3
	メンタルトレーニング	自己分析と自己理解 ストレスマネジメント	10	5

区分	科目名	主な学習内容	時間数	
			時間	コマ
看護実践を 発展させる 科目	感染管理とマネジメント	感染看護総論 在宅における感染対策	4	2
	呼吸器疾患とケア	呼吸器疾患とケア 人工呼吸器の取扱いとケア 高齢者の呼吸器疾患の特徴とケア	6	3
	医療的ケア児の看護	重症心身障がい児の特徴 重症心身障がい児の発達支援 重症心身障がいと呼吸器ケア	6	3
	高齢・認知症ケア	高齢者の摂食嚥下機能のアセスメント 摂食嚥下障害のある療養者のケア 認知症と看護 認知症看護における倫理 エンド・オブ・ライフケア	10	5
	在宅緩和ケア	在宅緩和ケア総論 がん療養者の在宅緩和ケア 高齢者と薬物動態 オピオイド使用のポイント	10	5
	在宅リハビリテーション	肺理学療法 生活を重視した運動療法	4	2
総時間数			120	60

※本プログラムの授業は1時間45分、1コマは2時間（90分）です。

## 2. 研修のすすめ方

### 1) 授業方法について

授業は原則、隔週の土曜日9:00～16:10に行います。詳細は時間割表を確認してください。

- ① 1限 9:00～10:30      ② 2限 10:40～12:10      ③ 3限 13:00～14:30  
④ 4限 14:40～16:10      ⑤ 5限 16:20～17:50

#### (1) 対面授業および演習

それぞれの科目の受講場所については時間割で必ず確認してください。

場所に変更する場合があります。メール等でのお知らせに留意してください。

## (2) オンライン授業

ネットワークを介してパソコンやスマートフォン、タブレット等の端末を活用して実施される遠隔授業です。

### ① オンデマンド（動画コンテンツの配信）

あらかじめ収録した授業を配信する授業形式を指します。指定されたサイトにアクセスし、期限内に動画視聴を行ってください。アクセスに必要なパスワードは、後日連絡します。

### ② ハイブリッド型

対面式の授業とオンライン授業を組み合わせたもので、対面授業と同時にオンラインで授業を受けることができます。

## 3) 講義について

シラバスで講義内容を確認しておきましょう。

## 4) 演習について

シラバスで演習内容を確認しておきましょう。演習時に動きやすい服装が必要な際は講師より案内があります。その際は動きやすい服装を準備してください。

## 3. 受講上の留意点

### 1) 出席確認

原則として欠席は認めません。（忌引きやコロナ感染症等 事情により検討する）

### 2) 欠席・遅刻の連絡

(1) 欠席・遅刻の場合、授業開始までに必ずセンターに連絡をしてください。事前に決まっている場合は、先に申し出ておいてください。

(2) 原則として遅刻は認めません。20分以上の遅刻は欠席となります。

## 4. 修了要件

以下、①～③すべてを満たした際に、修了証及び履修証明書を授与します。

- ① 所定のプログラム 120 時間を履修している（欠席は3分の1以下、欠席時のレポートあり）
- ② 各科目の評価が 60 点以上である。
- ③ 全科目終了後に実施する客観的臨床能力試験において 60 点以上である

### <履修証明書とは>

2007年の学校教育法の改正により、同年12月26日より大学等における「履修証明制度」が創設されました。従来の学士などの学位とは異なり、社会人等を対象とした一定のまとまりのある学習プログラム修了者に対して交付されるものです。

2023年度

エキスパート HOME ナースを目指す人材育成プログラム

「OMPU-HOME ステーション学び場」

# シラバス (講義計画)

授 業 科 目 名	臨床推論			
担 当 者 名	赤澤 千春			
時 間 数	4時間	授 業 形 態	講義・演習	
一 般 目 標	在宅療養者の症状の変化に対応し、身体所見・検査所見から病態を把握する臨床推論のプロセスについて学ぶ。			
行 動 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床判断と臨床推論とは何かを説明できる。</li> <li>2. 臨床判断と臨床推論の関係を説明できる。</li> <li>3. 在宅の場で遭遇しやすい事例を通して、臨床判断過程を思考できる。</li> </ol>			
評価・フィードバック	授業への参加度，レポート等による総合評価とする。フィードバックは授業内に行う。			
事前準備受講要件等	別途，指示する。			
回数	日時	学習課題	内容及び方法	担当
1	10月14日 ③	臨床判断と臨床推論	臨床判断の構成概念とそのプロセス，臨床推論の方法について解説する。	赤澤
2	10月14日 ④	臨床推論の実際	紙上事例を用いて，在宅看護の場で遭遇する症状における臨床推論の実際を体験する。	赤澤

授 業 科 目 名	フィジカルアセスメント			
担 当 者 名	八尾 みどり			
時 間 数	10 時間	授 業 形 態	演習	
一 般 目 標	在宅療養される患者の状態変化に気づき、系統的アプローチ（第一印象、初期 ABCD、二次 ABCD）に基づき、緊急度と重症度を判断する方略を学習する。さらに臨床判断を医師に的確に報告、必要とされる看護ケアの提案が行えることを目指す。			
行 動 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 系統的アプローチ（第一印象、初期 ABCD、二次 ABCD）について理解できる。</li> <li>2. 病歴聴取およびフィジカルイグザミネーションを駆使して情報を得ることができる。</li> <li>3. 系統的アプローチにより緊急度、重症度の判断ができる。</li> <li>4. 臨床判断を医師に的確に報告することができる。</li> <li>5. 臨床判断に応じた看護ケアの提案ができる。</li> </ol>			
評価・フィードバック	シミュレーションの参加度、積極性、事後レポートなどにより総合的に評価			
事前準備受講要件等	フィジカルイグザミネーションについて事前学習する			
回数	日時	学習課題	内容及び方法	担当
1	12月23日 ①	初期対応総論 ・系統的アプローチ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急度と重症度について</li> <li>・第一印象、初期 ABCD、二次 ABCD、簡潔な病歴聴取 (SAMPLE)</li> <li>問診 (OPQRST)、報告 (ISBARC)</li> </ul>	八尾
2	12月23日 ②	シミュレーション 1	【シミュレーション内容】 系統的アプローチの活用	八尾
3	1月6日 ①	症候論	意識障害、ショック、高低体温	八尾
4	1月6日 ②	シミュレーション 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>【シミュレーション内容】</li> <li>・系統的アプローチにそって、フィジカルアセスメント、病態アセスメントの知識を活用した臨床推論を行う。</li> <li>・緊急度・重症度判断を行い、医師への報告を行う。</li> </ul>	八尾
5	1月6日 ③	シミュレーション 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>【シミュレーション内容】</li> <li>・シミュレーション 2 の内容に加え、看護ケアの提案を行う。</li> </ul>	八尾

授 業 科 目 名	在宅看護における生体診断			
担 当 者 名	津田 泰宏			
時 間 数	10時間	授 業 形 態	講義・演習	
一 般 目 標	身体診察の基本手技および在宅での看護実践に必要な生化学検査、画像検査の読み方・解釈の仕方について学ぶとともに、在宅看護におけるポータブルエコーの活用と実際について学ぶ。			
行 動 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体診察の基本を復習し、正しい診察手技を行うことができる。</li> <li>2. 血液検査、動脈血ガス分析、心電図検査の臨床的意義が理解でき、在宅での看護実践に役立てることができる。</li> <li>3. レントゲン、CT、MRI、超音波検査の仕組みが理解できており、それらの結果を解釈し、在宅での看護実践に役立てることができる。</li> <li>4. ポータブルエコーの基本操作を習得し、在宅での看護実践において有効に活用できる。</li> </ol>			
評価・フィードバック	受講態度、積極的な演習参加態度などで評価する。質問等があればその場でフィードバックしていく。			
事前準備受講要件等	フィジカルアセスメントにおける診察手技を各自で予習しておく。血液、生化学検査の項目の意味を各自で調べておく。胸部、腹部の解剖生理学的知識を事前に復習しておく。			
回数	日時	学習課題	内容及び方法	担当
1	11月25日 ④	身体診察基本手技の理論と演習	基本的な身体診察の演習を通して、診察所見から診断の手がかりについて説明する。	津田
2	12月9日 ③	生化学検査と看護	血液検査、動脈血ガス検査、心電図など代表的な生化学検査の臨床的意義、所見の解釈方法について説明する。	津田
3	12月9日 ④	画像検査と看護	レントゲン検査、CT検査、MRI検査、超音波検査の仕組みと、代表的な異常所見の捉え方、解釈の仕方について説明する。	津田
4	12月23日 ③	在宅看護におけるポータブルエコーの活用(1)	在宅看護におけるポータブルエコーの基本操作と活用について説明する。さらに、演習を通して解剖とエコー画像について理解し、ポータブルエコーの基本操作について習得する。	津田
5	12月23日 ④	在宅看護におけるポータブルエコーの活用(2)	演習を通してポータブルエコーを活用した検査を実施し、得られた画像所見から臨床判断し、必要な看護について議論する。	津田

授 業 科 目 名	看護倫理			
担 当 者 名	真継 和子 南口 陽子 八尾 みどり			
時 間 数	10時間	授 業 形 態	講義・演習	
一 般 目 標	看護実践の場で遭遇する倫理的問題を解決するための基礎となる理論や原則、諸概念を学ぶ。また、それらを活用し倫理的問題の分析、解決策の検討を通して倫理的判断能力と倫理調整能力を養う。			
行 動 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 倫理的問題を検討するために必要な倫理原則、概念について説明できる。</li> <li>2. 看護実践の場で遭遇する倫理的問題の概要と問題解決に向けた方法論について説明できる。</li> <li>3. 看護実践の場における倫理的問題を含む現象について分析し、倫理的問題を査定し、解決に向けた最善策を提案できる。</li> </ol>			
評価・フィードバック	ディスカッションや演習への積極的な参加態度、課題レポートにより総合的に評価する。授業内での質問対応、レポートを返却する。			
事前準備受講要件等	医療の倫理原則について調べておくこと。			
回数	日時	学習課題	内容及び方法	担当
1	10月14日 ①	看護実践上の倫理的概念と倫理原則	看護実践上の倫理的概念である責務、アドボカシー、協力、ケアリングについて議論する。さらに、徳の倫理、医療倫理、ケア倫理それぞれの考え方と特徴を議論し、看護倫理への理解を深める。	真継
2	10月14日 ②	看護実践における倫理的意思決定	在宅に特徴的な倫理的問題について検討するとともに、倫理的問題を解決するためのモデルやアプローチ方法を概観し、その活用について議論する。	真継
3	11月25日 ③	倫理調整	倫理調整とは何かを理解し、事例をもとに倫理的問題の査定、解決に向けた方策を検討する。	南口
4	3月9日 ③	在宅における倫理事例検討	【シミュレーション1】 シミュレーションにおいて、倫理的問題に気づき、解決するために自らできることを見出し、倫理的根拠をもって行動する。また、解決に向けた最善策について議論する。	八尾
5	3月9日 ④	在宅における倫理事例検討	【シミュレーション2】 シミュレーションにおいて倫理的問題の解決プロセスを疑似体験し、指導的立場における倫理的判断、調整について議論する。	八尾



授 業 科 目 名	医療の質保証と安全管理			
担 当 者 名	新田 雅彦 寺井 美峰子			
時 間 数	8時間	授 業 形 態	講義	
一 般 目 標	質の高い医療，ケアを提供するための医療安全の基本や体系的な取り組み，リスクマネジメントの理論と対策について学び，在宅看護における看護の質評価，安全管理について考察する。			
行 動 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全とその歴史について説明できる。</li> <li>2. 質評価の枠組み，評価方法について知る。</li> <li>3. 医療・看護の質評価に関する機関とその特徴を知る。</li> <li>4. 医療・看護の質改善に向けたアプローチ方法について知る。</li> </ol>			
評価・フィードバック	レポートおよび発表，ディスカッション内容を総合的に評価する。			
事前準備受講要件等	別途，指示する。			
回数	日時	学習課題	内容及び方法	担当
1	11月11日 ①	医療安全	医療安全とその歴史、医療安全の基礎知識について概説する。	新田
2	1月20日 ②	質評価の評価方法	看護の質評価，質評価の枠組みについて概説する。	寺井
3	1月20日 ③	医療・看護の質の測定と改善（1）	医療・看護の質評価に関する各機関と評価方法の特徴，質の評価・測定と改善について検討する。	寺井
4	1月20日 ④	医療・看護の質の測定と改善（2）	医療・看護の質評価の実際と，質改善や改革に向けた方策について事例を用いて検討する。	寺井

授 業 科 目 名	看護教育・管理			
担 当 者 名	原田 かおる 池西 悦子			
時 間 数	12時間	授 業 形 態	講義・演習	
一 般 目 標	スタッフを教育するために必要な諸概念について学び、実際のシミュレーションや事例検討を通して知識・技術・態度の統合を図る。また、実践における課題について組織分析し、課題解決に向けた方策の計画、実施、評価を行うことで組織をマネジメントする能力を養う。			
行 動 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. スタッフ教育・マネジメントするために必要なリーダーシップ、コーチング、リフレクションについて説明できる。</li> <li>2. シミュレーション場面を通して自己の傾向や課題を振り返ることができる。</li> <li>3. 実践事例のリフレクションを通して、看護職としての自己の特性に気づき、実践の質向上に向けた行動計画が立案できる。</li> <li>4. 自施設の課題を解決するための組織を分析する方法が説明できる。</li> <li>5. 自らの所属する組織が直面している実践上の課題を明らかにし、課題に対する解決方策を計画・実行・評価できる。</li> </ol>			
評価・フィードバック	レポートおよび発表、ディスカッション内容を総合的に評価する。			
事前準備受講要件等	リフレクションシートを記載し当日持参すること。 自施設における看護実践上の問題について考えておくこと。			
回数	日時	学習課題	内容及び方法	担当
1	10月28日 ③	コーチング・リーダーシップ論	組織マネジメントに必要なリーダーシップ・コーチングについて概説し演習を通して理解を深める。	原田
2	10月28日 ④	コーチング・リーダーシップ論	模擬場面を用いた体験学習にて理解を深める。	原田
3	10月28日 ①	看護におけるリフレクション	リフレクションの概念・方法について学ぶ。	池西
4	10月28日 ②	看護におけるリフレクション	リフレクションの実践を通して理解を深める。	池西
5	11月25日 ②	組織分析	自施設の課題を分析するための組織分析の方法を概説する。 所属する組織の看護実践上の課題を明確化と解決策を検討し、アクションプランを立案する。	原田
6	3月23日 ⑤	組織分析	計画立案した課題解決に向けた方策を実行・評価のもと共有しディスカッションにて理解を深める。	原田

授 業 科 目 名	コンサルテーション			
担 当 者 名	原田 かおる			
時 間 数	6時間	授 業 形 態	講義・演習	
一 般 目 標	看護コンサルテーションの概念および実践モデル，プロセスについて学ぶ。また，それらを活用しコンサルテーションの具体的な展開方法を修得することで，スタッフに教育的にかかわる力を養う。			
行 動 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護コンサルテーションの概念，看護コンサルテーションの実践モデル，コンサルテーションのプロセスが理解できる。</li> <li>2. 看護コンサルテーションの具体的な展開方法が理解できる。</li> <li>3. 事例を用いてコンサルテーションプロセスを体験し，スタッフへの教育的かかわりについて考察できる。</li> </ol>			
評価・フィードバック	レポートおよび発表，ディスカッション内容を総合的に評価する。			
事前準備受講要件等	スタッフから相談された案件と対応について想起しておくこと。			
回数	日時	学習課題	内容及び方法	担当
1	1月27日 ①	コンサルテーションの概念 コンサルテーションのプロセス	看護コンサルテーションの概念，看護コンサルテーションの実践モデルとタイプ，コンサルテーションのプロセスについて概説する。さらに，看護実践における教育的かかわりに関するディスカッションにて理解を深める。	原田
2	2月10日 ③	コンサルテーションの実際	コンサルテーション事例の分析を通して議論する。	原田
3	2月10日 ④	コンサルテーションの実際	コンサルテーション事例の分析を通して議論し，理解を深める。コンサルテーションにおける自己の課題について検討する。	原田

授 業 科 目 名	地域包括ケアと多職種連携			
担 当 者 名	真継 和子			
時 間 数	4時間	授 業 形 態	講義・演習	
一 般 目 標	地域の医療計画・介護保険事業計画を把握し、地域包括ケアシステムを評価するとともに、看護の役割と機能について学ぶ。さらに、地域包括ケアシステムにおける多職種連携のあり方と課題について考察し、実践につなげる枠組みやモデルについて理解する。			
行 動 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各自の活動地域における人口動態、保健・医療・福祉サービス等の充足状況、地域診断から課題分析ができる。</li> <li>2. 多職種連携の目的、内容、意義を説明できる。</li> <li>3. 多職種連携に影響する要因および課題（障壁）を列挙できる。</li> <li>4. 多職種連携に必要な能力について説明できる。</li> <li>5. 地域包括ケアシステムでの看護の役割と機能を考察できる。</li> </ol>			
評価・フィードバック	レポートおよび発表、ディスカッション内容を総合的に評価する。			
事前準備受講要件等	各自の活動地域における医療計画・介護保険事業計画について調べておくこと。			
回数	日時	学習課題	内容及び方法	担当
1	11月11日 ②	地域包括ケアシステムの現状と課題	各自の活動地域における課題分析から地域包括ケアシステムを評価し、地域包括ケアを実践していくために必要な要素について量、質の観点から議論する。	真継
2	2月10日 ⑤	多職種連携と看護の役割	実践事例を多職種連携の視点から分析し、地域包括ケアシステムにおける看護の役割と機能、各自の多職種連携の抱負について発表、議論する。	真継

授 業 科 目 名	社会保障制度			
担 当 者 名	林 佳美			
時 間 数	6 時間	授 業 形 態	講義・演習	
一 般 目 標	わが国における社会保障制度と訪問看護実践と関連付けて理解することができる。また、それらを実践の場で活用する力を養う。			
行 動 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. わが国における社会保障制度の基本的な考え方が理解できる。</li> <li>2. 根拠法に基づくさまざまな形態の訪問看護活動の共通点と相違点について説明できる。</li> <li>3. 自施設の地域における利用者・家族の在宅生活を支える地域の資源と活用方法，課題について説明できる。</li> </ol>			
評価・フィードバック	訪問看護実践における地域資源の活用についての課題			
事前準備受講要件等	なし			
回数	日時	学習課題	内容及び方法	担当
1	11月11日 ③	社会保障制度 地域包括ケアシステム	保険診療のしくみ 医療保険・介護保険の違い なぜ、在宅が重要なのか 講義方式：対面	林
2	12月9日 ①	社会保障制度	訪問看護のしくみ，報酬 (医療，介護，難病，障害，自立 支援，生活保護など) 講義方式：対面	林
3	12月9日 ②	社会保障制度	地域資源を知る 地域資源を活用する グループワークで討議	林

授 業 科 目 名	メンタルトレーニング			
担 当 者 名	清野 健太郎			
時 間 数	10時間	授 業 形 態	講義・演習	
一 般 目 標	訪問看護の場におけるケアの質を高めるために、自身のメンタルトレーニングを通じて、管理者としてのあり方を見直しながら、スタッフをエンパワーメントする関わり方を学ぶ。			
行 動 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己のストレス状態に気づき、適切な対応ができる。</li> <li>2. 個々人のコミュニケーションスタイル及び対応方法の違いが理解できる。</li> <li>3. 組織の人材育成の目的や意義が説明できる。</li> <li>4. スタッフへの指導・育成のあり方や必要な援助方法が理解できる。</li> <li>5. 職場でのリーダーシップの発揮のために、マインドフルネスを実践・活用できる。</li> </ol>			
評価・フィードバック	レポートおよびディスカッション内容を総合的に評価する。			
事前準備受講要件等	別途、指示する。			
回数	日時	学習課題	内容及び方法	担当
1. 2	10月29日 ①②	セルフマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己のストレス状態の把握及びストレスへの対応</li> <li>・コミュニケーションスタイルの理解と活用</li> </ul>	清野
3. 4	11月12日 ①②	スタッフエンパワーメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織の人材育成の目的や意義</li> <li>・メンタルサポート</li> </ul>	清野
5	11月25日 ①	マインドフルネス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己認識力を高める</li> <li>・マインドフルネスとリーダーシップ</li> </ul>	清野

授 業 科 目 名	感染管理とマネジメント			
担 当 者 名	原田 かおる			
時 間 数	4時間	授 業 形 態	講義・演習	
一 般 目 標	在宅で感染を予防するために必要な基本的知識と技術を再確認し、地域における訪問看護の役割について学ぶことで、事業継続のためのマネジメントについて考えを深める。			
行 動 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅における感染予防の必要性，標準予防策が説明できる。</li> <li>2. 在宅で多く遭遇する感染症とその対応について説明できる。</li> <li>3. 感染症に対する訪問看護の役割と活動の実際を知り，自施設の感染管理の現状と課題が説明できる。</li> </ol>			
評価・フィードバック	レポートおよび発表，ディスカッション内容を総合的に評価する。			
事前準備受講要件等	在宅で遭遇する主な感染症とその対策について調べて授業に臨む 自施設の感染予防マニュアルを復習し持参すること。			
回数	日時	学習課題	内容及び方法	担当
1	11月11日 ④	在宅における感染対策	在宅における感染と標準予防策について概説する。在宅で遭遇する主な感染症，感染を防止する方法についてプレゼンテーション、ディスカッションにて理解を深める。	原田
2	11月25日 ⑤	在宅における感染対策	在宅における感染予防の現状と課題について議論し，自施設の課題を見出す。	原田

授 業 科 目 名	呼吸器疾患とケア			
担 当 者 名	西原 望 今戸 美奈子			
時 間 数	6時間	授 業 形 態	講義・演習	
一 般 目 標	在宅で療養する高齢者の呼吸器疾患および検査，治療の特徴について理解し，呼吸器障害のある高齢者と家族への支援について学ぶ。			
行 動 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者に生じやすい代表的な呼吸器疾患とその特徴について説明できる。</li> <li>2. 呼吸器疾患の鑑別や疾患の程度を理解するために必要な検査について説明できる。</li> <li>3. 高齢者に生じやすい代表的な呼吸器疾患の治療について説明できる。</li> <li>4. 在宅療養高齢者の病歴聴取及びフィジカルイグザミネーションを実施し情報を得ることができる。</li> <li>5. 臨床判断に応じた看護ケアの提案ができる。</li> </ol>			
評価・フィードバック	<p>評価：演習への参加度を総合的に判断する。</p> <p>フィードバック：演習の中で行う。</p>			
事前準備受講要件等	呼吸器疾患をもつ高齢者の看護経験がある			
回数	日時	学習課題	内容及び方法	担当
1	1月6日 ④	呼吸器障害のある高齢者と家族への支援	高齢者の呼吸器疾患および検査，治療の特徴について概説し，事例をもとに呼吸器障害のある高齢者と家族への支援について議論する。	今戸
2	2月24日 ③	呼吸器系フィジカルイグザミネーションから得た情報をアセスメントする	肺解剖生理 フィジカルアセスメントモデルを活用して、問診・視診・聴診・触診・打診を学ぶ。	西原
3	2月24日 ④	人工呼吸器の看護	基本的な呼吸器モード DOPE でアラーム対応	西原



授 業 科 目 名	医療的ケア児の看護			
担 当 者 名	鈴木 美佐			
時 間 数	6時間	授 業 形 態	講義・演習	
一 般 目 標	在宅療養をする医療的ケア児・重症心身障がい児の特徴を理解したうえで、医療的ケア児・重症心身障がい児への看護援助を展開するために必要な考え方が習得できる。			
行 動 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療的ケア児・重症心身障がい児の特徴及び背景を理解することができる。</li> <li>2. 重症心身障がい児・医療的ケア児の成長・発達の特徴について理解することができる。</li> <li>3. 重症心身障がい児・医療的ケア児の呼吸管理に必要な看護支援について理解することができる。</li> </ol>			
評価・フィードバック	各回、講義終了後の感想・質問の提出をもって出席とする。感想・質問内容については、次回講義でフィードバックを行う。講義への参加状況及び第3回講義後のレポートを総合的に評価する。			
事前準備受講要件等	特になし			
回数	日時	学習課題	内容及び方法	担当
1	1月27日 ②	重症心身障がいをもつ子ども・医療的ケア児の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重症心身障がい児・医療的ケア児の特徴</li> <li>・障がいをもつ子どもの権利</li> </ul>	鈴木
2	1月27日 ③	重症心身障がい児の成長・発達を支えるケア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいをもつ子どもの成長・発達の特徴</li> <li>・重症心身障がい児・医療的ケア児の成長・発達のアセスメントと援助</li> </ul>	鈴木
3	1月27日 ④	重症心身障がい児における呼吸管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重症心身障がい児・医療的ケア児における呼吸器系のヘルスアセスメント</li> <li>・呼吸管理を必要とする重症心身障がい児・医療的ケア児の看護（呼吸を整えるためのケア）</li> </ul>	鈴木

授 業 科 目 名	高齢・認知症ケア			
担 当 者 名	原田 かおる 西 依見子			
時 間 数	10時間	授 業 形 態	講義・演習	
一 般 目 標	高齢者に多くみられる摂食嚥下障害，認知機能低下の症候や病態・治療，検査について学び，倫理的判断に基づいた適切かつ最善なケアを創出する力を養う。			
行 動 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者（認知症高齢者を含む）を統合的に理解できる。</li> <li>2. 摂食嚥下障害のある高齢者のアセスメントとケアが説明できる。</li> <li>3. 高齢者（認知症高齢者含む）看護における倫理的課題を説明できる。</li> <li>4. 高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケアについて学び，自己およびチームの実践における課題について説明できる。</li> </ol>			
評価・フィードバック	レポートおよび発表，ディスカッション内容を総合的に評価する。			
事前準備受講要件等	担当教員の指示による			
回数	日時	学習課題	内容及び方法	担当
1	1月20日 ①	高齢者の理解とケア	高齢者の身体的・心理社会的特徴をとらえた症状マネジメントについて概説する。	原田
2	2月10日 ①	高齢者の摂食嚥下機能のアセスメント	高齢者の摂食・嚥下機能のアセスメントと栄養評価，摂食・嚥下に関連した多職種連携とチームアプローチについて説明する。	西
3	2月10日 ②	摂食嚥下障害のある療養者のケア	事例をもとに，摂食・嚥下障害のある高齢者と家族が抱える問題と支援について検討する。	西
4	2月24日 ①	認知症と看護 高齢者（認知症高齢者を含む）看護における倫理	認知症ケアに必要な知識を概説する。高齢者ケアにおける倫理的課題についてディスカッションすることで理解を深める。	原田
5	2月24日 ②	高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケア	高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケアについて学び，自己およびチームの実践上の課題について説明できる。	原田

授 業 科 目 名	在宅緩和ケア			
担 当 者 名	南口 陽子			
時 間 数	10時間	授 業 形 態	講義・演習	
一 般 目 標	在宅で療養するがん療養者とその家族が抱える全人的苦痛を理解し、緩和するために必要な専門的知識を習得する。また、エンド・オブ・ライフにおける質の高い看護について検討する。			
行 動 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 緩和ケアの概念を知り、包括的がん医療モデルや在宅緩和ケアの提供体制について理解できる。</li> <li>2. がん療養者と家族の全人的苦痛について理解できる。</li> <li>3. がん治療の現状と外来通院によりがん薬物療法をうける療養者の援助について理解できる。</li> <li>4. エンド・オブ・ライフにおける症状マネジメントの概要と看護の役割について理解できる。</li> <li>5. がん疼痛を有する高齢がん療養者の薬物療法による介入について理解できる。</li> <li>6. エンド・オブ・ライフにおける意思決定支援について理解できる。</li> </ol>			
評価・フィードバック	講義への参加状況や取り組み、ディスカッション			
事前準備受講要件等	予習に提示する内容および、ディスカッション事例を熟読する。			
回数	日時	学習課題	内容及び方法	担当
1	3月9日 ①	緩和ケアの概念と在宅緩和ケア	緩和ケアの概念、ならびに在宅緩和ケアの提供体制 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 緩和ケアの定義と考え方</li> <li>2. 包括的がん医療モデルと在宅緩和ケアの基準</li> <li>3. 在宅緩和ケアの提供体制と課題</li> </ol> 予習：自己の実践から、在宅緩和ケアにおける課題を整理する。	南口
2	3月9日 ②	がん薬物療法を受け る療養者への援助	がん治療の現状、外来通院によりがん薬物療法をうける療養者の援助 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. がん治療の現状</li> <li>2. 経口抗がん剤と主な副作用</li> <li>3. アセスメントとセルフマネジメントを継続する支援</li> </ol> 予習：経口抗がん薬を一つ取り上げ、レジメンと副作用について調べる。	南口

3	3月23日 ①	エンド・オブ・ライフにおける症状マネジメント	<p>エンド・オブ・ライフにおける症状の特徴と症状マネジメントにおける看護の役割</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. がん療養者のエンド・オブ・ライフにおける症状の特徴</li> <li>2. 全人的苦痛とアセスメントの視点</li> <li>3. 症状マネジメントにおける看護の役割</li> </ol> <p>予習：がん療養者の全人的苦痛の考え方について調べる.</p>	南口
4	3月23日 ②	がん疼痛に対する症状マネジメント	<p>がん疼痛の定義，アセスメントおよび疼痛マネジメントにおける看護の役割</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. がん疼痛の定義とメカニズム</li> <li>2. がん疼痛のアセスメント</li> <li>3. 高齢者がん療養者の特徴（薬物動態等）を踏まえた薬物療法</li> <li>4. 在宅におけるオピオイド使用のポイント</li> </ol> <p>予習：WHO方式の三段階除痛（鎮痛）ラダーについて調べる.</p>	南口
5	3月23日 ③	エンド・オブ・ライフにおける意思決定支援	<p>エンド・オブ・ライフにおける意思決定における看護の役割</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. エンド・オブ・ライフにおける意思決定の特徴</li> <li>2. エンド・オブ・ライフにおける基本的コミュニケーション</li> <li>3. 意思決定支援における看護の役割</li> </ol> <p>予習：自己の実践から，エンド・オブ・ライフにおける意思決定を阻害する要因を整理する.</p>	南口

授 業 科 目 名	在宅リハビリテーション			
担 当 者 名	櫻井 洋平			
時 間 数	4時間	授 業 形 態	講義・演習	
一 般 目 標	在宅におけるリハビリテーションの意義、目的を訪問看護の役割と関連付けて理解することができる。さらに、療養者のQOLの維持向上のための運動療法、肺理学療法の実際について理解を深める。			
行 動 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅におけるリハビリテーションの意義・目的が説明できる。</li> <li>2. 生活を重視し、療養者のQOLを維持・向上するためのリハビリテーションについて理解できる。</li> <li>3. 運動療法や肺理学療法等の理論と方法、実際について理解できる。</li> </ol>			
評価・フィードバック	授業後のレポート課題で評価する。			
事前準備受講要件等	事前準備は特に必要ありませんが、在宅におけるリハビリテーションでの疑問や相談したいこと等あれば教えて下さい。			
回数	日時	学習課題	内容及び方法	担当
1	3月9日 ⑤	在宅リハビリテーション概論	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅リハビリテーションの歩みと現状</li> <li>2. 在宅におけるリハビリテーションの意義・目的</li> <li>3. 在宅リハビリテーションの評価</li> <li>4. 在宅リハビリテーションの効果とエビデンス</li> </ol>	櫻井
2	3月23日 ④	在宅リハビリテーションの実際	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運動療法や肺理学療法等の理論と方法</li> </ol>	櫻井

2023年度 エキスパートHOMEナース支援プログラム 時間割

月日	曜日	①1限 9:00~10:30	②2限 10:40~12:10	③3限 13:00~14:30	④4限 14:40~16:10	⑤5限 16:20~17:50	
10/2	土					開講式・ガイダンス 17:00~	
						講義室 5	
10/14	土	看護倫理① (真継)	看護倫理② (真継)	臨床推論① (赤澤)	臨床推論② (赤澤)		
		講義室 3					
10/28	土	看護教育・管理③ (池西)	看護教育・管理④ (池西)	看護教育・管理① (原田)	看護教育・管理② (原田)		
		講義室 5					
10/29	日	メンタルトレーニング① (清野)	メンタルトレーニング② (清野)				
		講義室 2					
11/11	土	医療の質保証① (新田)	地域包括ケア① (真継)	社会保障制度① (林)	感染管理① (原田)		
		講義室 3					
11/12	日	メンタルトレーニング③ (清野)	メンタルトレーニング④ (清野)				
		講義室 2					
11/25	土	メンタルトレーニング⑤ (清野)	看護教育・管理⑤ (原田)	看護倫理③ (南口)	生体診断① (津田)	感染管理② (原田)	
		講義室 5		講義室 1	講義室 5		
12/9	土	社会保障制度② (林)	社会保障制度③ (林)	生体診断② (津田)	生体診断③ (津田)		
		講義室 5		実習室 2.4.5			
12/23	土	フィジカルアセスメント① (八尾)	フィジカルアセスメント② (八尾)	生体診断④ (津田)	生体診断⑤ (津田)		
		実習室 2.4.5					
1/6	土	フィジカルアセスメント③ (八尾)	フィジカルアセスメント④ (八尾)	フィジカルアセスメント⑤ (八尾)	呼吸器疾患とケア (今戸)		
		実習室 2.4.5				講義室 5	
1/20	土	高齢・認知症ケア① (原田)	医療の質保証② (寺井)	医療の質保証③ (寺井)	医療の質保証④ (寺井)		
		講義室 5					
1/27	土	コンサルテーション① (原田)	医療的ケア児のケア① (鈴木)	医療的ケア児のケア② (鈴木)	医療的ケア児のケア③ (鈴木)		
		講義室 2		講義室 5			
2/10	土	高齢・認知症ケア② (西)	高齢・認知症ケア③ (西)	コンサルテーション② (原田)	コンサルテーション③ (原田)	地域包括ケア② (真継)	
		講義室 5					
2/24	土	高齢・認知症ケア④ (原田)	高齢・認知症ケア⑤ (原田)	呼吸器疾患とケア① (西原)	呼吸器疾患とケア② (西原)		
		講義室 5		病院2号館2階 シミュレーション室			
3/9	土	在宅緩和ケア① (南口)	在宅緩和ケア② (南口)	看護倫理④ (八尾)	看護倫理⑤ (八尾)	在宅リハビリテーション① (櫻井)	
		講義室 5		実習室 1.2			
3/23	土	在宅緩和ケア③ (南口)	在宅緩和ケア④ (南口)	在宅緩和ケア⑤ (南口)	在宅リハビリテーション② (櫻井)	看護教育・管理⑥ (原田)	
		講義室 5					

キャンパスマップ

